

都民版

新宿支局
渋谷区代々木
2の7の3 151
第7荒井ビル
電話 (3320)051
FAX (3320)071
都民版広告
(3265)958

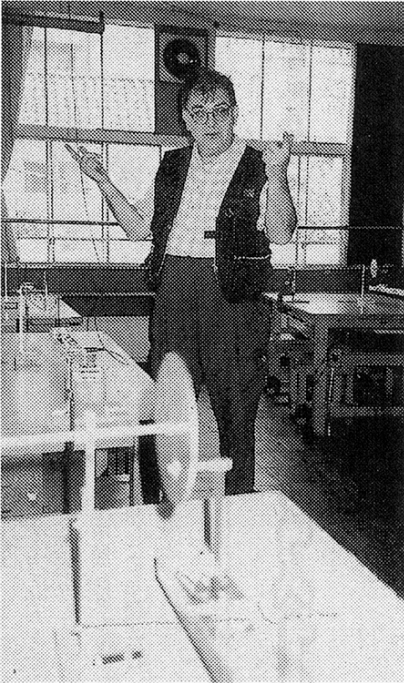
で舎校校で 現代美術展

旧赤坂小で日本、オランダの作家交流

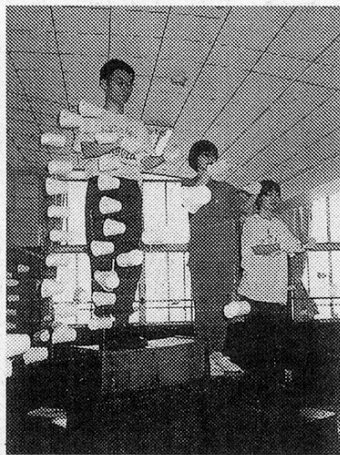
教室の雰囲気生かし 12人がユニーク作品

9日から

日本とオランダの現代美術家による交流展が、廃校になった旧赤坂小学校の校舎を会場に開かれる。展示作品は、完成したものを持ち込むのではなく、会場にふさわしくと、各人のイメージした作品が教室ごとに仮設される。十二人の美術家たちは九日からの展示を前に、「人とテクノロジーの関係を問う」意欲作の制作に取り組んでいる。



機械を前に説明するパウル・パンハウゼンさん



糸を張った音楽室で水島さん(右端)ら3人の合奏

置く「ギャラリースージ」が実行委員会を組織し、港区が区制五十周年記念事業の一つとして会場を提供して開催される。

理科室を使ったパウル・パンハウゼンさん(左)の作品は「機械的音響効果の一授業風景」。児童が座った九つの実験用テーブルを魔方陣に見立て、二オクターブの音域内を九区分した「音を出す機械を配した。人が近付くとセンサーが感知して各機械がモーターで傾き、機械に張った弦の上をビー玉が転がって音を出す。九つの機械が奏でる音は、教師机にあるアンプで増幅してスピーカーで流す仕掛け。パンハウゼンさんは、「九つの机と、児童と先生がいた授業の場を生かしたかった」と制作意図を語る。

音楽室は水島一江さん(三)と世田谷区)の「ストリングラフイ」。糸電話を応用したような、両端に紙コップを取り付けた糸を教室中に張り巡らせた演奏システムで、水島さんら手袋をはめた三人が、糸をはじいたり指を滑らせたりして多彩な音階を表現する。水島さんは「空間を音にする試み。音楽準備室や廊下も使い、展覧会の中に十曲くらい演奏したい」と準備と練習を重ねている。

このほか、教室の床に和紙を張り付けた針を並べ立て、わずかな風の動きを表現する作品や、キュウリな

などを使った「生物ラジオ」など、ユニークな作品が展示される。

会場となる赤坂小は、地下鉄赤坂見附駅の近くにあったが、児童数の減少によって、二年前に廃校となつた。港区は区民の十三人に一人が外国人という土地柄で、オランダも、最初の公使館が一八五八年(安政五)に設置されて以来、深いつながりがある。

実行委員会の酒井信一代表(三)は、「会場も作品の一部。その場の歴史や環境が作品構成に大きく影響している」と話し、区民をはじめ多くの人が訪れてくれるのを楽しみにしている。問い合わせは同実行委員会(☎38061・2581)へ。